県内ワイド

元気よ、届け

日赤県支部・被災地便り

日赤県支部
総務課長
山本裕行さん

ジャムおじさん

誕生日パン 児童感激

この連載でもすっかりおなじみになってきた「福井のジャムおじさん」。被災地の子どもたちにパンを届けたいと集まった、福井市内のパン屋さん有志の思いをわれわれが橋渡し。その三回目の〝配達〟が今月上旬にあった。

今回の届け先は、二回目と同じ宮城県石巻市雄勝地区。その保育園と小学校に通う子どもたちが対象だ。この地域には一つの保育園と三つの小学校があった。しかし津波が子どもたちの生活の場もろとも飲み込んでしまい、残ったのは唯一、高台にあった大須小学校だけ。他は校舎が使えなくなり、三十キロも離れた隣町の校舎を間借りしている。

これまで二回の配達で、ジャムおじさんたちは避難所の住民数があったので、早速、各保育園、小学校に問い合わせたところ、合わせて二十三人から申し込みがあった。

申込書には「子どもたちには、サプライズにしたいので、まだ秘密にしています。とても楽しみです」と先生たちからのメッセージも添えられていた。ジャムおじさんたちは、子どもたちの喜ぶ表情を思い浮かべながら、腕によりを掛けてパンを焼いたそうだ。

この誕生日パンは、縦二十センチ、横三十センチ、自分の顔より大きなパンには、子どもたちの名前と「おめでとう」のメッセージがチョコレートで描かれている。受け取った女の子は、うれしそうな表情で「もらったよ」と言わんばかりに横にいた先生に何度も目をやっていた。

誕生日パンを受け取り笑顔の女児㊨と筆者＝宮城県石巻市船越小学校で（日赤県支部提供）

別の小学校、保育園でも、子どもたちは大歓声で迎えてくれた。パンを受け取った園児を迎えに来ていた母親は、「この校舎に移った当初は、子供の精神状態も不安定だったのですが、今は元気よく過ごしています。誕生日パンのプレゼントは本当にうれしい。元気づけられます」と、わが子と同じように喜んでいた。

福井のジャムおじさんと、被災地の子供をつなぐ〝パン有引力〟。配達の様子を伝えると、ジャムおじさんの一人、青山宗敬さんは「子どもたちが感激してくれた様子を聞いて、本当にうれしい。これからも活動の輪を広げ、続けていきたいです」と話していた。

われわれ救護班が出発した今月五日の車両に積み込まれ、翌六日、がれきの残る被災地を回って子どもたちに届けられた。

対象が一人だけだった船越小学校（石巻市雄勝町）。内緒にしてあったはずだったが、どこからか聞いたのだろう。一年生の女児はこの日届けられるかもしれないと、今か今かと何度も外を眺めていたそうだ。学校に近づいてくる赤十字マークの車両を見つけると、教室から外に飛び出し